研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号: 15301

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2017~2021

課題番号: 17K02775

研究課題名(和文)日本語現場指示詞の方言差の解明

研究課題名(英文)Dialectal Differences in the Japanese demonstratives of the exophoric use

研究代表者

堤 良一(Tsutsumi, Ryoichi)

岡山大学・社会文化科学学域・准教授

研究者番号:80325068

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文): 日本語の現場指示用法について、方言差があるのではないかという仮説を検証するための研究であった。前半は集中的に各地で実験を行ったが、コロナ禍により中断を余儀なくされた。しかし、前半の実験により多くの成果が得られた。まず、指示詞の選択が方言によるかどうかについては未だはっきりしたことは言えない。しかし一方で、話者の対象に対する好悪などの感情的な態度や、共同注意概念が影響を及ぼ

す可能性を示唆した。 後半は理論的な考察へと課題をシフトさせた。平田(2020)の論考では自然会話の収録により多くの知見を得ているが、この結果が我々の実験の結果とどのように異なるかについては今後引き続き検討する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究により、指示詞の地理的変異に注目する端緒を開いた。これは我々の空間認知と日本語の文法が一様ではなく、様々な外的な要因や話者の心理的な状態によって変化することを明らかにした結果であると言えよう。今後は、共同注意概念を用いた理論との比較検討や、歴史的なさらなる考察を通じて、より正確な指示詞の使用の実態、ひいては人間の空間認知の問題に対する検討がなされるべきである。本研究はこの問題に対する重要な示唆を行ったものと位置づけられる。

研究成果の概要(英文): The study was designed to test the hypothesis that there may be dialectal differences in field-directed usage of Japanese. The first half of the study was conducted intensively in various locations, but had to be interrupted due to the corona disaster. However, the first half of the experiment yielded many results. First, it is still not clear whether the choice of demonstratives depends on the dialect. On the other hand, the results suggest that the speaker's affective attitude toward the target, such as liking or dislike, and the concept of joint attention may be influential.

In the latter half of the period, we shifted the issue to theoretical considerations. Hirata(2020) provides a number of findings from the recording of natural conversations, but it remains to be seen how these results will differ from our experimental results.

研究分野: 日本語学

キーワード: 指示詞 現場指示用法 方言 共同注意 好悪 評価

1.研究開始当初の背景

指示詞の現場指示用法においては、コは話し手の近く、ソは聞き手の近く、あるいは話し手から近くも遠くもない距離、アは話し手からも聞き手からも遠い場所を指すというのが常識的な理解とされ、それ以上のことはほぼ顧みられることはなかった。そんな中、高橋太郎氏はいくつかの論考で、ソが聞き手の周りを指示していたのが、年代が下るにつれ、話し手と聞き手の距離が離れれば、アで指示されるようになってきていることを実験により明らかにした。しかし、高橋氏の研究は首都圏方言話者に限定されたものであった。そこで、堤(2010)岡崎(2010)は、中国地方(岡山市とその周辺)方言話者に対して、同様の実験を行い、その結果、この方言の話者は高橋氏が観察したものよりもより顕著に聞き手の周りをアで指す傾向があることを示唆した。

2.研究の目的

このような流れの中、本研究は同様の実験を各地で行うことにより、現場指示用法の地域間での方言差を明らかにすることを目的とした。指示詞においての方言差は、特に現場指示用法においてはほとんど問題にされることはなかったし、どの方言においてもほぼ同じように使用されているというような暗黙の了解があった。本研究により、指示詞の方言差が明らかになれば、指示詞研究全体への貢献がなされると考えた。

3.研究の方法

前述の高橋太郎氏が考案した方法を前半では用いた。後半はこれらの方法に少々の変更を加えた。具体的には次のような点を修正している。

1. 話し手の着席位置

できる限り距離を離した場合に、どのような指示の仕方がなされるかを見るために、教室内で距離が最もとりやすい位置、具体的には教室の隅に話し手が着席するようにした。

2. 聞き手の着席位置

聞き手の後ろ側を指す場合に、方言差がある可能性が指摘されていたために、聞き手の着席位置よりも後ろ側に、指示対象を置き、指せるように実験方法を修正した。

3. 指示対象の統一

指示対象の大小、形状等で指示の仕方に影響が及ぶことのないように、すべての指示対象を クリアファイルとした。

4. 指示対象の配置

教室内にまんべんなく配置するようにした。下図参照。

		教卓	₽		4
					4
11↓	21+	31↓	41↓	51↓	61+
() 🕹	() 0	() 0	() 🕹	() 🕫	()
12↓	22↓	32↓	42↓	52↓	62+
() φ	() 🕫	() 0	() 0	() 0	() 4
13+	23↓	33↓	43↓	53↓	63+
() 🕫	() 🕫	() 0	() 0	(K) +	() 4
14↓	24↓	34↓	44↓	54↓	64+
() 🕫	() 🕫	() 0	() 0	() 0	() 4
15↓	25↓	35↓	45↓	55↓	65↓ ◆
() 🕫	() 🕫	() 0	() 0	() 0	() 4
16↓	26↓	36↓	46↓	56↓	66+
() 0	() 🕫	() 0	() 0	() 0	() 4
17↓	27↓	37↓	47↓	57↓	67↓ *
(H) &	() 0	() +	() 🕫	() 0	() 4

5. 指示を聞き手が出す(高橋法)か、話し手が出すか(堤法)

高橋法では指示は聞き手が出していた。すなわち、「 さん(話し手の名前) はどれですか」のように。この方法に加えて、本研究では、指示を話し手が出す場合、つまり、唐突に話し手が、「 さん、 を見てください」「どれですか?」「これ / それ / あれです」のような場合を実験内容に入れた。これは平田(2014)の、指示詞の選択に共同注意の確立が関わるとした主張を確かめるために行った措置である。

4. 研究成果

研究の遂行段階において、コロナ禍に入り、対面での実験を行うことができなくなった。そのために、本研究は最終的な結論を出すことができないままであった。しかし、研究期間内には次のような成果が得られた。代表的なものをいくつか挙げる。

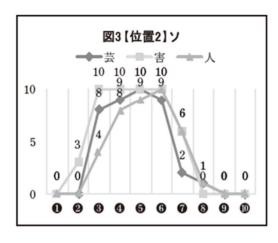
堤良一(2018)「直接経験が必要ない記憶指示のアノ」岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太 (編)(2018)『バリエーションの中の日本語史』139-156,くろしお出版

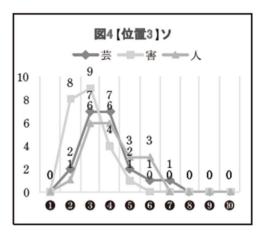
岡﨑友子(2018) 「現代語・中古語の観念用法「アノ」「カノ」」岡﨑友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太(編)(2018)『バリエーションの中の日本語史』119-138,くろしお出版藤本真理子(2018)「中古のカ(ア)系列とソ系列の観念指示用法 古典語における知識の切り替わりから 」岡﨑友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太(編)(2018)『バリエーションの中の日本語史』103-118,くろしお出版

この3編の論文は、現場指示用法のものも含めて、指示詞に話者の、指示対象に対する感情・評価的な側面が反映されることを明らかにした。特に堤(2018)では、長崎市において調査を行っている。方言に関して調査したものであり、長崎方言においては直接経験がなくてもアノが使用されることを調査によって明らかにしている。しかし、この傾向は首都圏方言話者にも見られることが論じられており、調査に使用したデータセットでは、長崎方言と首都圏方言の間に差は見られない。一方、長崎方言話者に対するフォローアップインタビューにおいては、対象への好き/嫌いといった感情が、指示詞のソとアの使用に影響を与えるという直感を持つ話者がいることが指摘されている。岡崎(2018)も作例によって、ソの使用と、興味・関心の薄さのようなものが連動することが指摘されている。藤本(2018)は、歴史資料から、日本語の指示詞においては、感情・評価が指示詞の使用に影響を及ぼす可能性を示唆したものである。

上記の研究と同様に、この研究では、現場指示用法において、指示対象への好悪が指示詞の選択に影響を及ぼすことを実験に酔って明らかにした。本研究では、話し手と聞き手を、いくつかの異なる位置に立てせて実験を行っているが、そのどちらの場合でも、「害」と表記されている、害虫を指示する場合には、それ以外の対象(「芸」は芸能人、「人」は友達など)を指すよりも、ソが現れる位置が手前にずれ込むことが指摘されている。上記3編の論文と合わせて、重要な指摘である。

4.1 【第2:害】指示対象「好ましくないもの(害虫等)」(ソコ)





堤良一・岡﨑友子(2022)「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」『言語研究』 161: 91-117.日本言語学会

コロナ禍になって、本研究課題が目指した実験的な手法を用いた研究ができなくなったことで、我々は過去に収集したデータをもとに、日本語の指示詞を再度具に検討することができた。その中で、「そうだ! 京都行こう」のような、これまで例外として詳しく扱われてこなかったような用法の中に、「基準指示用法」として抽出できるような共通点を見出した。本論文では、そのことを理論的に証明し、かつ歴史的な考察を加えて、この用法が、日本語の指示詞の使用の中に、古くから連綿と存在してきたことを実証した。

その他、次の3編は、本研究課題の成果を含めた形で、日本語学界の展開について論じたものである

岡﨑友子(2019)「指示詞からみる文法史」『日本語学』38-4: 12-21 岡﨑友子(2020)「学界の展望」『日本語の研究』16-2: 21-28, 日本語学会 堤良一(2022)「日本語文法学界の展望(2018-2020) 現代語」『日本語文法』22-1: 171-179,日本 語文法学会

以上のように、本研究課題による成果は、直接的な方言差の完全な解明には至らなかったものの、実験・調査の中で副次的に見えたことは多く、まだまだ指示詞研究の中でやり残されたことが多いことがわかった点で意義がある。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件(うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件)

1.著者名 堤 良一、岡﨑 友子	4.巻 161
2.論文標題 心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 言語研究	6.最初と最後の頁 91~117
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.161.0_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 岡﨑友子	4.巻 98 - 12
2.論文標題 上代の指示代名詞について	5.発行年 2021年
3.雑誌名 国語と国文学	6.最初と最後の頁 50-65
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 岡﨑友子	4.巻 116,117
2.論文標題 データからみる中古の指示代名詞	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 語文	6.最初と最後の頁 72-86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大	4.巻
2.論文標題 本州方言における他動詞文の主語と目的語の区別について 京都市方言と宮城県登米町方言の分析	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 『日本語の格表現』	6.最初と最後の頁 65-108
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

	T
1.著者名	4 . 巻
藤本真理子	0
	5.発行年
「日本語指示詞の変容 聞き手の存在と結びついた「そ」 」	2021年
│ 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『日本語の歴史的対照文法』	137-156
日本品の正文印列派文/四	197 - 190
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
	国际六省
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
藤本真理子	11
	11
│ 2.論文標題	5.発行年
「パロディーとは 『浮世風呂』を例に似ているということを考える 」	2021年
VEVI CIG LEGIOL CINICIN CALACTAL STORY	2021—
2 1844-7	C 8718467
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『尾道市立大学地域総合センター叢書』	4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
	無
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	1130 (1
カーノンテクとへとはない、人はカーノンテクとヘル四和	
	T
1.著者名	4 . 巻
	4.巻
1.著者名 藤本真理子	_
藤本真理子	0
藤本真理子 2.論文標題	5 . 発行年
藤本真理子	0
藤本真理子 2 . 論文標題	5 . 発行年
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」	0 5.発行年 2021年
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」	0 5.発行年 2021年
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	0 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無
 藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著
 藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に」 3.雑誌名『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良一・岡崎友子	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に」 3.雑誌名『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良一・岡崎友子	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に」 3.雑誌名『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良ー・岡崎友子 2.論文標題	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161 5.発行年
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に」 3.雑誌名『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良一・岡崎友子	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3.雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良一・岡崎友子 2.論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161 5.発行年 2022年
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良ー・岡﨑友子 2 . 論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161 5.発行年
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3.雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良ー・岡﨑友子 2.論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3.雑誌名	0 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 161 5.発行年 2022年
藤本真理子 2.論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3.雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堤良一・岡崎友子 2.論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良ー・岡﨑友子 2 . 論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
藤本真理子 2 . 論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良ー・岡崎友子 2 . 論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名 言語研究	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
 藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
 藤本真理子 2 .論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 .雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 .著者名 堤良ー・岡崎友子 2 .論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 .雑誌名 言語研究 	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
 藤本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
藤本真理子 2 . 論文標題「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良ー・岡崎友子 2 . 論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名 言語研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.161.0_91	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
藤本真理子 2 .論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 .雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良ー・岡崎友子 2 .論文標題 「心内の情報を指示するソ系 (列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名 言語研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.161.0_91 オープンアクセス	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117
腰本真理子 2 . 論文標題 「地域の会報にあらわれる方言談話 『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に 」 3 . 雑誌名 『談話会会報』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 堤良一・岡崎友子 2 . 論文標題 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について」 3 . 雑誌名 言語研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.161.0_91	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-16 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 161 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 91-117

1.著者名	4 . 巻
堤良一	22-1
2.論文標題	5 . 発行年
「日本語文法学界の展望(2018~2020)現代語」	2022年
,	·
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本語文法	171-179
	171 173
	 査読の有無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
なし	有
	F 700 11 ++
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
岡﨑友子	16-2
15 2212	
2 . 論文標題	5.発行年
「特集2018年・2019年における日本語学会の展望 文法(史的研究」	2020年
19末2010年(2018年に切ける日本昭士五以成主 大/広(大印刷九)	2020-
3.雑誌名	6 早初と早後の百
	6.最初と最後の頁
日本語の研究	21-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
「オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
1.著者名	4 . 巻
	4 · 2
藤本真理子	第 1 写
2 *A-LEGE	F 38.7- /-
2 . 論文標題	5.発行年
「地域のことばはどのようにして残るか 『三訪会会報』を資料のひとつに 」	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『尾道文学談話会会報』	19-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
なし	無
なし オープンアクセス	
なし	無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	無 国際共著 - 4.巻 第20号
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子	無 国際共著 - 4.巻 第20号
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 第20号 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」	無 国際共著 - 4.巻 第20号 5.発行年 2021年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」	無 国際共著 - 4.巻 第20号 5.発行年 2021年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139
オープンアクセス	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139 査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み 学修データベースの構築と活用可能性に着目して 」 3 . 雑誌名 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	無 国際共著 - 4 . 巻 第20号 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 pp.136-139 査読の有無

1 \$24.67	4 **
1 . 著者名	4.巻
岡崎友子	38 - 4
2.論文標題	5 . 発行年
指示詞からみる文法史 内省の効かない古代語を研究対象とする	2019年
	20.0 (
2 MH++47	6 見知と見後の百
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
日本語学	12-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4 ***	4 ***
1.著者名	4 . 巻
岡﨑友子	73
	5.発行年
現代日本語の指示詞コソアの指示領域	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
文学論叢	1-17
ᄉᄀᄜᄧ	1-17
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	☆読の有無
なし	無
60	
	国際共英
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	1
1 . 著者名	4 . 巻
	4.巻
1 . 著者名	_
1 . 著者名	1
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題	5 . 発行年
1.著者名 藤本真理子	1
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12	5.発行年 2019年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名	5 . 発行年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12	5.発行年 2019年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名	5.発行年 2019年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名	5.発行年 2019年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 -
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社	5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 -
1.著者名 藤本真理子 2.論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3.雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無
1.著者名 藤本真理子 2.論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3.雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無
1.著者名 藤本真理子 2.論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3.雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 -
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大 2 . 論文標題	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大 2 . 論文標題	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 機誌名 花鳥社 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 1 5 . 発行年 2019年
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大 2 . 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 3 . 雑誌名	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 藤本真理子 2 . 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 3 . 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 竹内史郎・松丸真大 2 . 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 1 5 . 発行年 2019年
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 3.雑誌名 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 雑誌名 くろしお出版 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 雑誌名 くろしお出版 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 雑誌名 くろしお出版 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 雑誌名 くろしお出版 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 著者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 3.雑誌名 くろしお出版 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 オープンアクセス	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102
 著者名 藤本真理子 論文標題 学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12 雑誌名 花鳥社 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 ・蓄者名 竹内史郎・松丸真大 論文標題 京都市方言における情報構造と文形態 格標示とイントネーション標示による分裂自動詞性 3 . 雑誌名 くろしお出版 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 - 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 67-102

1.著者名	4 . 巻
- 「一句 日日	4 · 항
	·
2.論文標題	5.発行年
「指示詞+助詞」による文連接の一考察 現代語・中古語コーパスの対照から	2018年
出が時、時間1に60人性後の一号系 境で品 中日出口 バスの対流から	2010-
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
『日本語文法史4』	1-21
日本田へ名とする	1 21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	•
1 . 著者名	4.巻
岡﨑友子	なし
13.000	
2.論文標題	5.発行年
現代語・中古語の観念用法「アノ」「カノ」	2018年
THE THE THE PROPERTY OF THE	
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
『バリエーションの中の日本語史』	119-138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	·
1 . 著者名	4.巻
岡﨑友子	なし
2.論文標題	5 . 発行年
「 頃 」の用法と歴史的変化 現代語・中古語を中心に	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『形式語研究の現在』	75-102
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4.巻
堤良一	なし
	/& U
2.論文標題	5.発行年
2 . 論文標題 直接経験が必要ない記憶指示のアノ	
直接経験が必要ない記憶指示のアノ	5 . 発行年 2018年
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
直接経験が必要ない記憶指示のアノ	5.発行年 2018年
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名 『バリエーションの中の日本語史』	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 139-156
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名 『バリエーションの中の日本語史』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名 『バリエーションの中の日本語史』	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 139-156
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名 『パリエーションの中の日本語史』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 139-156 査読の有無 無
直接経験が必要ない記憶指示のアノ 3.雑誌名 『バリエーションの中の日本語史』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 139-156 査読の有無

│ 1.著者名	4.巻
世宗均・堤良一	115
・	110
2.論文標題	5 . 発行年
·····	
第二言語習得と普遍文法の利用可能性・束縛理論を中心に・	2018年
2 MHH Ø	6 単加レ単級の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『日本學報』	66-83
	00 00
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
	当际六有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	1 . w
1.著者名	4.巻
長谷川哲子	11号
KHMH J	11-3
2.論文標題	5.発行年
経験を語る談話における接続詞使用 「そして」の使用について	2019年
2 hh÷+47	6 見知と目後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『エクス言語文化論集』第11号	101-122
The second secon	'
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
The state of the s	<u> </u>
1.著者名	4.巻
	_
1.著者名 松丸真大	4 . 巻 なし
松丸真大	なし
松丸真大	なし
2.論文標題	なし 5 . 発行年
松丸真大	なし
2.論文標題	なし 5 . 発行年
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法	なし 5 . 発行年 2018年
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法	なし 5 . 発行年 2018年
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題	をし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大	なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題	をし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 松丸真大 2 . 論文標題 甑島里方言の文法概説	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名	をし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 なし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 松丸真大 2 . 論文標題 甑島里方言の文法概説 3 . 雑誌名	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年
松丸真大 2. 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3. 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 著者名 松丸真大 2. 論文標題 甑島里方言の文法概説	をし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 なし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名	をし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 なし 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オーブンアクセス	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
 松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 松丸真大 2 . 論文標題 甑島里方言の文法概説 3 . 雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 松丸真大 2 . 論文標題 甑島里方言の文法概説 3 . 雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155 査読の有無 無
 松丸真大 2.論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3.雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス オープンアクセスが困難 1.著者名 松丸真大 2.論文標題 甑島里方言の文法概説 3.雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス 	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155
松丸真大 2 . 論文標題 関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法 3 . 雑誌名 藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 松丸真大 2 . 論文標題 甑島里方言の文法概説 3 . 雑誌名 鹿児島県甑島方言からみる文法の諸相 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	をし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 443-462 査読の有無 国際共著 - 4 . 巻 なし 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 121-155 査読の有無 無

1 . 著者名	4 . 巻
藤本真理子	なし
- AA	- 70 (- (-
2 . 論文標題	5 . 発行年
「中古のカ(ア)系列とソ系列の観念指示用法 古典語における知識の切り替わりから 」	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『バリエーションの中の日本語史』	103 - 118
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
2 2 2 2 2 CH CHO CH / 2 CHO 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
1. 著者名	4 . 巻
藤本真理子	なし なし
豚 中長注 J	'& U
2.論文標題	F
·····	5.発行年
「指示副詞の形式と意味 古典語・甑島方言を通して」	2019年
0. 1821-07	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『鹿児県甑島方言からみる文法の諸相』	229 - 248
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
小林雄一郎・岡﨑友子	13
-3 ALLAR - MA 1-3-4-3 \land 3	
2.論文標題	5.発行年
中古における接続表現の統計的分析 指示詞を構成要素とするものを中心に	2017年
中日にのける1支約ながのが6月11万年 1日からを構成支条とする 000を中心に	2017-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
国立国語研究所論集	65-77
相乗込みのDOL (ごごり ナゴご カー **********************************	本誌の左仰
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	
	4 . 巻
竹内史郎・岡崎友子	4.巻 14
	_
竹内史郎・岡﨑友子	14
竹内史郎・岡﨑友子 	5 . 発行年
竹内史郎・岡﨑友子	14
竹内史郎・岡﨑友子 2 . 論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて	14 5.発行年 2018年
竹内史郎・岡﨑友子 2.論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3.雑誌名	14 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
竹内史郎・岡﨑友子 2 . 論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて	14 5.発行年 2018年
竹内史郎・岡﨑友子 2.論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3.雑誌名	14 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
竹内史郎・岡崎友子 2.論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3.雑誌名 国立国語研究所論集	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 241-254
竹内史郎・岡崎友子 2. 論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3. 雑誌名 国立国語研究所論集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	14 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 241-254 査読の有無
竹内史郎・岡崎友子 2.論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3.雑誌名 国立国語研究所論集	5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 241-254
竹内史郎・岡崎友子 2 . 論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3 . 雑誌名 国立国語研究所論集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	14 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 241-254 査読の有無 有
竹内史郎・岡崎友子 2. 論文標題 日本語接続詞の捉え方 ソレデ、ソシテ、ソレガ、ソレヲ、ソコデについて 3. 雑誌名 国立国語研究所論集 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	14 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 241-254 査読の有無

1.著者名 藤本真理子	4.巻
194-T-754-Z-1	_
2.論文標題 現実世界の対象を表さないソの指示 歴史的変遷をとおして	5 . 発行年 2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.#認石 『語用論フォーラム2』、ひつじ書房	6. 取例と取接の負 155 - 178
	本社の大畑
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
4 ***	, 344
1.著者名 藤本真理子 	4.巻
2 . 論文標題	5 . 発行年
日本語指示詞の複合形式にみられる問題	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『尾道市立大学芸術文化学部紀要』尾道市立大学	177 - 181
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	## ##
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	<u> </u>
1.著者名	4 . 巻
松丸真大	15
2 . 論文標題	5 . 発行年
古仁屋方言の名詞述語否定形式アラン・ジャネンとその派生用法	2017年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
阪大社会言語学研究ノート	72-86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 4件/うち国際学会 6件)	
1.発表者名 長谷川哲子	
2 . 発表標題 説明タスクでの接続詞使用 - 読み手評価から見た接続詞の選択 -	
3.学会等名 IAI P10周年記令シンポジウム(日本語プロフィシェンシー研究学会)(投待護演)(国際学	5A.\

JALP10周年記念シンポジウム(日本語プロフィシェンシー研究学会)(招待講演)(国際学会)

4 . 発表年 2021年

1.発表者名
一 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
2.発表標題
「確定性・指示性と評価的意味」
3 . 学会等名
日本言語学会
4 · 光农中 2021年
20217
1.発表者名
堤良一・閻琳
「聞き手」としての非母語話者の容認性判断
3.チムヤロ JALP10周年記念シンポジウム(日本語プロフィシェンシー研究学会)(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2021年
1.発表者名
佐戊
2.発表標題
「基準指示用法について」
3.学会等名
淡江大学日文系(招待講演)
4.発表年
1 元·元·农士
1.発表者名
藤本真理子
「呼びかけの助詞「彐」の変遷 返事を期待しない働きとその特徴 」
尾道市立大学日本文学会
4. 発表年 2000年
2020年

1
1.発表者名
2.発表標題
現代語コソアの指示について
3 . 学会等名
日本語文法学会
4.発表年
4. 完衣牛 2019年
20194
1.発表者名
堤良一・岡崎友子
2 改士+而15
2 . 発表標題 心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法について
心内の情報を指示するグネ(列)指示詞の用法について
3. 学会等名
土曜ことばの会
4.発表年
2020年
2020—
1 . 発表者名
堤良一
2.発表標題
初級レベルのコミュニケーション教育 コミュニケーションを重視すると初級の教育はどう変わるか?
2
3 . 学会等名 第34回上智大学言語学会
язн <u>ш工</u> 自入子言語子云
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
堤良一
2.発表標題
個人差とキャラクタのプロフィシェンシー
3.学会等名
3 . チスサロ 第1回日本語プロフィシェンシー研究学会国際シンポジウム(国際学会)
4 . 発表年
2019年

1.発表者名
岡﨑友子,渡辺由貴,宮内佐夜香,橋本行洋
2.発表標題
2. 光衣標題 日本語史研究とコーパス活用 その利点と注意点
ロや品と切れてコーハスは用しての利用では意味
3. 学会等名
日本語学会2018年度春季大会ワークショップ
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
堤良一・睦宗均
2.発表標題
普遍文法と第二言語習得の関連性 束縛理論を中心に -
3.学会等名
韓国日本学会第96回国際学術会議(国際学会)
种国口华于公和30日国际于机公路(国际于公)
4.発表年
2018年
1. 発表者名
堤良一・朴秀娟
1200
2.発表標題
「裸の助詞の出現可能性に関する日韓の相違について」
3.学会等名
・ テムサロ 韓国日本語学会(国際学会)
转四 口 华丽子云(四际子云)
4.発表年
2019年

1.発表者名
Michio MATSUMARU
2.発表標題
Interpreting Linguistic Maps Using GIS: A Case from Shogawa River Basin Area in Toyama
3.学会等名
3.子云寺石 Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics: Interpretation of Linguistic Maps(国際学会)
Nomatou Nound-Table Contendice on Geo-Iniguistics. Interpretation of Linguistic Maps(国际子云)
4.発表年
2018年

1.発表者名
藤本真理子
2.発表標題
2.光衣標題 「古典語・現代の文脈指示と文体」
3 . 学会等名 国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 岡﨑友子
2.発表標題
指示表現 + 助詞」による文連接の一考察
3.学会等名
国立国語研究所共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」
4.発表年
2017年
1.発表者名
岡﨑友子
2.発表標題
『日本語歴史コーパス』を利用した中古の感動詞研究
2 PA##
3 . 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 松丸真大
2 . 発表標題 関西方言の否定形式ナイ・アラヘン・チガウの諸用法
3 . 学会等名
日本語文法学会(招待講演)
4.発表年
2017年

1.発表者名 竹内史郎	
2.発表標題 格標示とイントネーション京都市方言の分裂自動詞性再考	
3.学会等名	
国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作	成
4 . 発表年 2017年	
〔図書〕 計3件	
1.著者名 堤良一	4 . 発行年 2022年
2.出版社 凡人社	5.総ページ数 208
3.書名 いい加減な日本語	
1.著者名 岡﨑友子・堤良一・岩田美穂・松丸真大・藤本真理子・深澤愛・森勇太・長谷川哲子	4 . 発行年 2017年
2.出版社 ココ出版	5.総ページ数 225
3.書名 ココが面白い! 日本語学	
1.著者名 真田信治監修、岸江信介・髙木千恵・都染直也・鳥谷善史・中井精一・西尾純二・松丸真大編	4.発行年 2018年
2 . 出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 501
3.書名 関西弁辞典	
「	

〔その他〕

6 . 研究組織

6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	岡崎 友子	東洋大学・文学部・教授	
研究分担者	(Okazaki tomoko)		
	(10379216)	(32663)	
	藤本 真理子	尾道市立大学・芸術文化学部・准教授	
研究分担者	(Fujimoto Mariko)		
	(10736276)	(25405)	
		関西学院大学・経済学部・准教授	
研究分担者	長谷川 哲子 (Hasegawa Noriko)	天 江ナ 九八子・ 佐 月子印・ 住 秋 攻	
	(20368153)	(34504)	
-	松丸 真大	滋賀大学・教育学部・教授	
研究分担者	TAX 兵八 (Matsumaru Michio)	IMA SEAN J TANK	
	(30379218)	(14201)	

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------